令和 4 年度

事業所名 : グループホーム あやめ 1階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100246		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム あやめ 1階		
所在地	〒020-0826 盛岡市神子田町8-27		
自己評価作成日	令和4年11月9日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者お一人お一人の健康維持に配慮し、踏み台昇降やカラオケを活用し曲に合わせて毎日身体を動かしている。園内はしっかりと清掃されており四季折々の作品を入居者と一緒で作成しながら季節感を感じてもらえるよう工夫している。今年も新型コロナウイルスの影響で外出する機会は少なかったものの、全員がドライブに参加でき、園内の行事も力を入れ季節を味わって頂いている。夏の野菜作りをはじめ、園庭でランチを楽しんだり、ティータイムを楽しんだりコロナ禍なりに、園での生活を工夫している。運営推進会議については今年は書面開催が大部分を占めたが、行事の報告をし園での様子や理解を深めてつながりを大事にしている。身体拘束委員会を設置し、一人一人のケースに合わせ、個人を尊重したきめ細かい介護が継続できるよう情報共有している。コロナ禍による面会において、来ていただいたご家族様はお断りせず、その状況にあった面会の仕方を工夫し入居者様とのつながりを大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市の南大橋に近い河南地区に位置し、住宅とアパートが密集する住宅街にある1階と2階の2ユニットの事業所である。法人が運営するグループホームが盛岡市内に5カ所あることから、コロナ禍で職員が出動できなくなった際には、事業所間で職員の応援体制をとることが出来ていた。職員は、「いつもあなたのそばにいて、心の声を聞いています」という事業所の理念を日々のサービス提供場面に反映するよう意識し、利用者一人一人の気持ちや思いを掴んで、日々の暮らしを支えている。コロナ禍で行動が制限せざるを得ない中、利用者の身体機能や身体能力の維持・向上を図るためホーム内での踏み台昇降やカラオケ体操を行なっているほか、積極的に近隣の散歩や季節を肌で感じられる花見や紅葉狩りなどのミニドライブを実施し、生活に潤いと安らぎが得られるよう努めている。清掃事業を展開する法人のノウハウを活かした行き届いた清掃により、快適に暮らせるよう環境整備に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付くところに掲示し、利用者様の心の声や思いを感じ取れるように実践している。	廊下に掲示した理念を常に意識して、日常の会話、表情、態度などから「利用者の心の声を聞く」ようにし、日々の生活を支援している。ミーティングの場でも、理念の実践を確認しながら理念の共有を図っている。また、4半期ごとにユニットの目標を職員の話し合いで定め(例えば、「1日に1回は外に出ましよう」などのように難しくなく、具体的なもの)、利用者も職員も張り合いのある生活を送れるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで運営推進委員会を通じて交流の輪を広げ、町内の夏祭りや避難訓練を行なっていたが、昨今のコロナ禍によりこれらの交流が無くなってしまった。	事業所として町内会に加入しているほか、地域に居住している職員が町内会の会員として事業所との懸け橋的役割を果たしている。現在は、コロナ禍により地域の夏祭りや避難訓練などは行われていないが、近隣の方から野菜などの差し入れをいただくことがある。	コロナ禍で地域との交流の機会がなくなっていますが、事業所の近況や認知症の相談情報などのお知らせを町内会の回覧板に挟んでもらうなどして、地域との繋がりが保てるよう取り組んでいくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	書面開催が多くなってしまったが、運営推進会議で身体拘束に関する話題を提供している。新型コロナウイルスの影響で、行事等への招待や参加が無くなり地域貢献の機会が無くなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、年6回行われていた会議はほとんどが書面開催に切り替わったため各委員さんからの声を議事録にして回覧し、職員で共有している。	会議メンバーには、地域代表が複数入っているほか、利用者代表、家族代表なども入っている。現在はコロナ禍により書面開催となっているが、意見をもらえるよう返信用封筒を同封し、委員からは質問や感想などを添えて返信してくれている。前回の外部評価を踏まえて目標達成計画を作成し、会議に一般の職員も参加できるよう工夫することとしていたが、書面会議が続いているため会議録を職員に回覧し、委員からの意見等を職員も共有し、日々の支援に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設当初より情報提供や指導を受けている。介護認定や生活保護受給者の受け入れ等、担当者との連絡を取り合い支援している。	日常の情報の連絡や報告はメールでのやり取りが中心であるが、事故報告など必要に応じて直接出向き、担当者と話し合うこともあり、顔の見える関係を意識し、円滑な連携ができるようにしている。コロナ禍の関係で保健所からの指導・助言、オキシメーター貸与などの協力を得ている。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム あやめ 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回以上の勉強会を行なっている。身体拘束廃止委員会を設立、2ヶ月に1度個別に検討し、身体的・言葉の虐待にならないよう話しあいながら実践している。玄関の外鍵は町内鍵かけモデル地区のため施錠しているが、内鍵は場合により夜間のみ行っている。コロナ禍前は、希望時に職員と一緒に掛けていた。収束したらまた出かけて気分転換して頂く。	「事業所として身体拘束はしない」との方針を定め、身体拘束廃止委員会を隔月に開催し、身体拘束や言葉の遮りがないか振り返っている。また、所長が作成した質問形式の課題について、職員一人一人が考え、調べて、回答を提出し、その後話し合うという形の勉強会を年2回以上実施している。鍵かけモデル地区のため日中も玄関の外鍵は施錠しているが、コロナ禍による制約がないときは、外に出ようとする利用者には職員と一緒にについて出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ない理解を深めている。常に身体や心の状態を観察して、見過ごされない様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様が数名おられ、連絡を取り合いながら支援している。学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけご本人にも見学して頂き、雰囲気を感じて貰っている。十分な説明をし納得したうえで契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望方法や聞き入れ先は重要事項説明書に記載しており、契約時に説明し活用していただいている。また、電話や面会時には声を掛け普段の生活ぶりを伝えたり記録を見てもらったりするなどし、要望も何うようにしている。玄関にご意見箱を設置している。	家族が面会に来たときや電話で話すときに意見や要望を聞くようにしている。家族からの要望には、「寒い季節になったので衣類を調整してほしい」「足りない衣類は購入してほしい」「本人の好きな菓子を持参したので食べさせてほしい」など生活に密着したものが多く、その都度応えている。また、前回の外部評価を踏まえて目標達成計画を作成し、利用者個々の生活状況を家族に定期的に伝える目標を立て、本人の写真をできるだけ多く載せ、居室担当者が本人の様子を記載した利用者ごとの「〇〇様便り」を年2回作成し、家族とのコミュニケーションの一層の充実に努めている。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に限らず普段から意見や考えを聞き取るようにしている。シフトの関係上みんなに連絡等が行き渡るよう申し送りノートも活用している。各係の活動については職員がアイデアを出し合い、主体となって取り組むようにしている。	管理者は、日々の業務を行なう中で職員の意見や提案を聞いているほか、毎日の申し送り時に話してもらったり、申し送りノートにも記載してもらっている。利用者の支援に関する提案については、職員みんなで話し合い、支援方法の見直しや検討を日常的に行なっている。職員は行事係、広報係、環境整備係などの係に所属し、系の企画に意見やアイデアを出し合って活動している。また、管理者は職員とのコミュニケーションが取りやすい事業所運営に留意し、職員の勤務についての要望も反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会に職員が所属するとともに担当を持つことにより役割と責任を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニット会議の際に勉強会を取り入れたり、経験や技術に合った研修に参加できるように配慮し、職員の技術・知識向上に努めている。昨年はe-ラーニングを活用し知識を深めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に参加したり、同系列のGHと合同で敬老会を行うなどして意見交換をし、自分たちの介護に活かせるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ見学して頂き本人の不安や困っている事をよく聞き、安心して生活できるような関係づくりを心掛けている。頂いた情報を職員間で共有し、入居後も本人の様子や表情・反応を観察しサービスへ取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み段階から話をよく聞くように努めている。面会に来られた際も会話をして話しやすい環境を作るように努めている。入居されてからも様子を報告し、お互いの情報を交換し素早い対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と会話をし本人に一番良いと思う支援方法をその時々で見直しながら支援している。状況が変わった場合は他のサービスも提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来る事をして頂きながら生活している。食器拭き・テーブル拭き・掃除・創作活動等出来る事をして頂き、やりがいを持ってもらいながら介助しすぎない様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で行事参加は自粛して頂いているが、敬老会時に各ご家族よりお母様に向けた、メッセージを頂き喜ばれた。面会時には状況によりガラス越しや距離を離して元気な様子を見て談話されている。ご家族様に受診介助も協力して頂いており様子を都度報告している。必要に応じてご家族様と相談し、意向を聞きながら一緒にサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	広報などで園での様子をお知らせしている。また本人にフォーカスしたお便りを作り、より園での生活の様子が分かるように努めている。面会時にはコロナの状況に応じて、ガラス越しや距離を置いて面会して頂いた。年賀状で元気な様子を知らせたり家族の写真を飾るなどしている。馴染みのお知り合いの方との面会もあった。少人数でのドライブで住み慣れた地域を往来した。	コロナ禍のため直接の面会はできていないが、工夫を凝らして馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。玄関でガラス越しや距離を置いての面会を行っており、家族と一緒に知人が訪ねて来たときには、利用者も知人も笑顔を見せている。敬老会では、コロナ禍で家族は参加できないので、家族からメッセージをもらいカードを作成して利用者へ渡し、喜んでもらっている。入居後、毎月訪問してくる美容師が新たな馴染みになり、会話を交わすことも見られる。利用者一人一人の様子を伝える「○○様便り」を作成し、コロナ禍で面会が自由にできない家族に安心してもらえるようにしている。また、ミニドライブに出かけた際には、利用者の生家や馴染みの街並みもコースに入れて通るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が協力して出来る作業を提供したりみんな出来るレクを提供したりしている。気の合う利用者様が同じテーブルに着けるよう配慮している。耳の遠い利用者様をフォローし、ジェスチャーを交え意思の疎通を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に言ったりケアマネや家族に様子をうかがうなどして関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを汲み取れるように希望を聞いたり言動を記録に残したり表情や会話の中からも把握できるように努めている。できる範囲で達成感のある生活になるよう支援している。	日々のかかわりの中で声をかけ、思いや意向を把握している。言葉で思いを伝えることができる利用者が少なくなっているため、職員の働きかけに対する反応を見て判断したり、「窓の外を頻繁に見ているので、外に出たいのではないか」というように、本人の表情や動きからも思いを汲み取り、申し送り帳に記入して職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様との暮らし方、生活環境を把握し、支援に繋げられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の生活状況や言動・仕草・会話などを記録し情報共有に役立てている。変化があれば申し送りノートを活用するなどして現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の言動・仕草・会話などを記録に残し、記録を基に担当者がモニタリングを作成しケアプランを作成している。本人や家族の要望も取り入れる様にしている。3か月に1回の見直しとしているが退院後や状況の変化があった時はその都度見直しを行っている。	居室担当者が利用者個々の毎日の状況を記録し、この記録を基に計画作成担当者が項目別に整理してモニタリングを行い、毎月のユニット会議で話し合っている。家族の意見や要望も踏まえ、原則3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。利用者の体調の変化等に応じた随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の言動・仕草・会話などを記録に残し、申し送りノートなども活用しながら情報共有や介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々職員間で意見交換しながら一人一人に今何が必要かを考え、事業所のみにとどまらない柔軟な支援を行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の了承の下、事前に警察に情報提供をし安全に生活できるように配慮している。運営推進委員の方々に顔を覚えて貰ったり、普段の生活の様子を運営推進会議で報告する事により、地域の方々と連携できるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き家族と協力しながら受診支援をしている。家族が受診をする際は日々の状況を詳細にお伝えし身体などの状況をお伝えしている。協力医の専門外の場合にはアドバイスを得て相応な医療機関を受診している。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者のほか、事業所の協力医に変更した利用者もいる。入居前からのかかりつけ医への受診時同行は家族が行っているが、事業所から身体状況の情報を伝えるとともに、受診結果を確認して記録に残し、共有している。協力医の訪問診療は月1回行なわれており、専門の科以外は、その場で医療機関の紹介をもらい、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や訪問診療の際に日ごろの状況を報告している。気になる事や相談事は協力医へ電話連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や退院時の連携のみではなく、入院時の洗濯などを行っている。家族に状況を伺うなどして現状把握に努めている。病院の看護師・相談員と相談しながら早期退院に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての指針は説明しているが現段階では医療連携などの整備が整っていない事を説明し理解を頂いている。入居者の状態の変化があるごとに家族・主治医と相談しながら取り組んでいる。終末期に向け訪問看護を入れながら取り組んだ事例もあった。	現段階では医療連携体制が整っていないことから、終末期の支援に限界があることを入居時に説明し、同意を得ている。利用者に状態の変化があるときは、家族、主治医と相談しながら、介護老人福祉施設に移る場合や入院という形になる利用者もいる。終末期に向け訪問看護を入れたこともあったが、現在は訪問看護は入っておらず、看取りも行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に講習会を行い、実践力を身につけるように努力している。マニュアルを作成し手順や方法をいつも目に付く場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防立ち会いでの避難訓練の他、盛岡市のシェイクアウトへの参加・水害時の避難訓練なども行っている。避難場所への経路の確認を実際に行ってみた。	火災を想定した避難訓練を年2回行なっているほか、地震や水害を想定した訓練も行なっている。夜間想定での避難訓練では、停電によりエレベーターが使えず、階段も暗く移動が大変なことなどの課題が浮き彫りになっている。水害想定での訓練では、少ない職員で避難場所に移動する大変さが明確になり、早めの避難が必要であることを確認している。水害時には、備蓄物品を2階に上げることなどを再確認している。自家発電装置が整備されていて、毎月試運転をしている。	夜間の火災等の場合は、勤務職員のみでの対応が困難なことから、運営推進会議で話し合っ、地域の協力体制の構築に向けた検討に取り組むことを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声掛けは傍で声を掛けたりプライバシーに配慮している。一人ひとりを尊重した声掛けをし、親しみのある中にも礼儀を踏まえた声掛けを心掛けている。	利用者の尊厳を大切に、誇りを損なわないような言葉かけや対応に配慮している。トイレ誘導を行なう際にもストレートな声かけは避け、言葉を選ぶなどして、誰が聞いても違和感のない支援に努めている。居室に入るときはノックを励行し、プライバシーの確保に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好んで行うパズルや新聞は利用者が自由に取れる場所にあり取り組んでいる。服も選べる方には好みの服装を選んでもらっており、日常的に訴えられない利用者でも表情などから汲み取るようにしている。耳の不自由な方も多いため速度や側での声掛けをし理解してもらい決定して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で自由に過ごすなど一人一人のペースで生活してもらっている。入浴などは生活のペースを考慮し順番を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切・耳掃除・服の汚れなどないか確認したり、本人の好みの化粧品の補充をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を楽しみながら自宅にいるような雰囲気の中食事をしている。テレビを点けながらニュースなどを話題にしたり和やかな会話を楽しんでいる。食器は瀬戸物を使用し温かみのある食卓としている。一人一人の出来る事を手伝ってもらい職員と一緒に準備や片付けをしてもらっている。献立はあらかじめ決まっているが、旬の食材を頂いた時など季節を味わって頂くべく話をしながら下準備を一緒に行っている。決まった食材でも切り方や盛り付けなど工夫している。	メニューは本社で作成しているが、事業所の事情に応じて変更を行なうこともある。時には新鮮な刺身を提供し、利用者と職員は同じ食卓を囲んで和やかに食事をとっている。生ものを食べない人には加熱するなど、利用者の趣向を把握して対応している。何人かの利用者は、調理のほか食器洗いや拭き方に参加している。また、誕生会には手作りケーキを作ったり、敬老会や大晦日には寿司屋に外注しているほか、普段も彩りのある盛り付けや陶磁器の食器を用いて、食事を楽しくするための工夫を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった食事形態としている。一日を通して必要量を確保できるように努めている。見た目にも気を配り、食事が進むよう配慮している。水分をしっかりと取れる様声掛け・見守りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせて声掛け・見守り・介助している。(舌のブラッシングや義歯の洗浄の仕方など) 歯科医からの助言のある方には毎回仕上げ磨きや歯茎マッサージを介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のタイミングを見て声掛けしている。なるべくトイレで排泄できるように声掛け・誘導し支援している。	可能な限りトイレで排泄する支援に努めており、現在一人で排泄可能な利用者も多い。また、排泄チェック表で利用者の排泄時間を把握し、タイミングを見て声掛け誘導することにより、トイレで排泄可能な利用者もいる。自分で排泄ができない場合や排泄時に失敗した場合には、羞恥心に配慮しながら、さりげなく、速やかに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便の確認をしている。根菜類や野菜を取り入れた食事でヤクルト・ヨーグルト・牛乳なども提供している。水分摂取や歩行運動・踏み台昇降など日々の運動に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回入浴している。生活の流れでタイミングよく入浴できるように声掛けしている。体調を見ながら入浴を見合わせたり、本人の身体や心の状態を考慮している。拒否のある方には時間や日にちをずらしたり、無理強いとにならない様に工夫している。	基本的には、3日に1回、午後の入浴となっている。1人で入浴できる利用者はおらず、昼食後に職員がついて入浴している。入浴を拒否する利用者には、時間を置いたり、場面を変えて誘導している。どうしても入りたくない利用者には、日を替えて入浴してもらい、清潔の保持に努めている。また、入浴時には懐かしい歌などを流したりして、楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で自由に休める様にしている。夕方からは職員の動きにも配慮し静かな気持ちの中で気持ちよく入眠できるように支援している。寝具を工夫しても冷えの訴えがある方には場合により湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は特に注意深く観察し、症状の変化について医師や看護師・薬剤師と相談している。一人一人に合った方法で服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段は好みに合わせた余暇を過ごして頂き、時には外に出て気分転換を図り、プランターで野菜を育て成長や収穫の楽しみを味わった。年中行事を計画・実行し季節を味わいながら楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出て気分転換を図っている。町内の散歩・花の水やり・玄関掃除など行っている。ドライブを行い、市内の様子をみて気分転換を図った。加えてお花見ドライブや紅葉ドライブなどで季節の移り変わりを全員に感じて頂いた。	現在コロナ禍で日常的な外出は控えているが、天気の良い日には、園庭に出て、椅子に座って日光浴をしたり、プランターの花や野菜の水やりをしたり、少人数で近隣を散歩したりして、できるだけ外気に触れるようにしている。また、市内にミニドライブに出かけて気分転換をするとともに、季節の変化を感じ取れるよう紅葉狩りのドライブに出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない。ご家族様との受診の際にはお買い物を楽しんでいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合には家族へ電話で話ができるよう支援している。家族から事務的な電話があった場合にも声掛けしできるだけ声を聴いて頂けるよう支援している。広報を作成し日頃の様子を伝えている。毎年家族へ年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りを利用者と一緒に作成、掲示し、季節を感じてもらっている。得意な事をして穏やかに過ごせるように支援している。音や匂い・明るさ・風・室温など配慮し過度な刺激とならないように配慮している。居室に名前を掲示し本人が親しみやすく分かりやすいよう工夫している。整理整頓を心掛け、歩行の妨げにならないよう気を配っている。	共用空間は、温度、湿度などのほか、行き届いた清掃により快適に暮らせるよう環境が整備されている。季節の花が飾られたり、テレビをゆっくり見ることができるようになっているほか、利用者が一人一人の得意技に応じて分担して(ハサミ遣いの得意な人は線に沿って切る、折り紙の得意な人は折り紙を作るなど)共同で作った大きな作品が壁に飾られている。また、ホールの一角に踏み台昇降や軽運動するスペースも確保されており、筋力の低下防止に役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・玄関前・本棚横にソファがあり寛ぐことが出来る。気の合う方同士会話を楽しんだりソファに座って外を眺めたり読書をする事が出来る。畳の空間があり、お手伝いをしながら入居者同士の交流が持てるような場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを持ち込んで頂いている。ご自分の作品や鉢植えの花・家族の写真や人形などを持ち込み居心地良く過ごせるようにしている。テレビの持ち込みもあり自由に観て頂いている。	居室の入り口には、利用者の名前と写真が貼られ、表札代わりの役割を果たし、自分の居室であることがわかるようになっている。居室には、電動ベッド、クローゼット、チェストが備え付けられていて、暖房はパネルヒーターで、冷房は廊下からの冷気となっている。利用者は、使い慣れた布団、テレビ、家族の写真、位牌などを持ち込み、居心地の良い居室としている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室が分からない利用者の為にトイレに表示(トイレ・ベンじょ)を付けたり居室のドアに名前や写真を貼り自分の所だと分かるような工夫をしている。自席が分からない利用者のために椅子にも名前を掲示したり、色で分かるような配慮をしている。		